

和洋女子大学
デジタル・データサイエンス教育プログラム
自己点検・評価報告書

2023(令和 5)年度

和洋女子大学では、2023 年度に「デジタル・データサイエンス教育プログラム」を文部科学省から認定を受けて課程を実施し、その自己点検・評価を大学・大学院評議会にて実施している。

2023(令和 5)年度の自己点検・評価結果は、以下のとおりである。

項目	点検結果	評価 (案)
履修・修得状況	・ 必須科目「パソコンの基礎と応用（講義コード：1052、1053、1064）」 共通総合科目 履修者数：69 名 修得者数：51 名 修得率：73.9% [履修者数（学部別）]人文学部 41 名、国際学部 11 名、家政学部 15 名、 看護学部 2 名 ・ 選択科目「数理と発想（講義コード：1317）」 共通総合科目 履修者数：13 名 修得者数：13 名 修得率：100% [履修者数（学部別）]人文学部 7 名、国際学部 3 名、家政学部 2 名、 看護学部 1 名 ・ 選択科目「日本語学特殊演習Ⅰ」 日本文学文化学科専門科目 履修者数：25 名 修得者数：23 名 修得率：92.0% ・ 選択科目「心理学統計法」 心理学科専門科目 履修者数：78 名 修得者数：69 名 修得率：88.5% ・ 選択科目「観光文化と分析」 国際学部専門科目 履修者数：52 名 修得者数：45 名 修得率：86.5% ・ 選択科目「栄養情報処理実習」 健康栄養学科専門科目 履修者数：130 名 修得者数：119 名 修得率：91.5% ・ 選択科目「保健統計学」 看護学科専門科目 履修者数：190 名 修得者数：190 名 修得率：100% ・ 選択科目「保健医療情報学」 看護学科専門科目 履修者数：51 名 修得者数：51 名 修得率：100% ・ プログラム修了者：19 名	B
学修成果	プログラム科目における授業評価アンケートの総合満足度※は、「パソコンの基礎と応用」においては全体平均値よりも高い結果であるものの、その他の本プログラム科目においては、授業満足度が全体平均を下回る科目があった。EXCEL の発展的機能や計算問題において難解であるとの自由記載が多数あり、理解度を確認したうえでの授業展開を検討する必要がある。 2024 年度には、全学的に学生の学修成果を数値的に可視化するシステムの導入を予定しており、本プログラムにおいても学生の学修成果の発展度合いを数値的に可視化できるようになるものと期待される。 ※授業評価アンケート： 全授業を対象に実施(評価の対象として優位性を欠く少人数(10 人以下)の授業は除外)。 各質問項目を点数化する評価に加え、自由記述欄には項目に該当しない部分の意見や、 数値で表されない質的な評価の観点も加味されている。	B

項目	点検結果	評価 (案)
授業評価アンケート等を通じた学生の 内容の理解度及び後輩等他の学生 への推奨度	現在実施されている授業評価アンケートには、授業内容の理解度について指標が無いため、授業の満足度での評価となっている。自由記載において、「進むのが早くて理解が出来ていなかった」などの記載も多数あり、各科目内での理解度についての検証が必要とされる。さらに、授業の理解度を含めた、授業評価の項目についても検討が必要である。 2024年度は、本教育プログラムの意義や科目構成について十分な説明を行うこととあわせて、修了学生から体験を聞く機会の準備や、プログラムを通して身につく力を明確に周知する等、学生が本プログラムに興味を持ち、後輩への推奨度が高まる様、対策に取り組む。	C
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	2023(令和5)年度のプログラム履修者は延べ608名おり、内561名が1科目以上を修得した(科目修得率92.3%)。 履修率向上に向けて、入学時に配付する履修ガイドに「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)」を掲載。2年生以上の学生には、同様の案内をオリエンテーションで配布。教務課履修ガイダンス内で説明、manaba course(オンラインプラットフォーム)で発信する等の周知を行った。昨年より延べ履修人数が55名増え、共通総合科目で開講している該当科目については、全学部から履修者を出すことができた。 本学では、大学での学びが深まること、また、大学が提供している学習支援システムへのアクセスが容易になることを目的に、2023年度より自律的に学ぶ力を育成するために、ノートパソコン等を持参して学ぶBYOD(Bring Your Own Device)の推進を行ってきた。入学学生のパソコンスキルは、年度ごとに向上しているため、「パソコンの基礎と応用」の授業内容も時代に合わせた内容に変更してきている。一方、「数理と発想」は、その科目名から敬遠されがちではあるが、身近な話題に引き付けて、とくに数理・AIの理解に必要な微分関数やベクトル、行列などの内容を「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させるような方法で教示する工夫がなされていた。 今後は、BOYDの推進やデータサイエンスに興味を持つ学生が身につけるべき科目として、多くの学生に受講を勧めていき、プログラムの認知度が高め、履修者数を増加させていく方法を検討する。	B
プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	プログラムを開設して間もないため、修了者の進路、活躍といった点に関して実績がないことから、現在の取り組みについて点検した。 本学では、Society 5.0を見据え、IT業界セミナーやIT系企業の学内採用説明会を毎年実施している。また、ITリテラシーを高めるためにIT関連の資格取得を奨励している。中でも、心理学科では、IT系の資格取得学生に受験料の一部の補助を行っている。毎年、IT系企業への就職も増えており、今後、本プログラムを履修した学生がIT業界やITリテラシーを生かせる職種に就職することが期待できる。本学の学生を採用したIT企業からの評価も高い。	B

項目	点検結果	評価 (案)
産業界からの視点を含めたプログラム内容・手法等への意見	2023 年度には、地域連携協議会・教学マネジメント評価委員会を開催し、市川市の諸団体及び市民との連携・協働を推進し、市川市における経済・産業・文化等の諸活動を発展させること、ならびに本学の教育研究を充実させることを目的に会議を行った。本学から学長、副学長、学部長、事務局長等が参加し、地域からは包括連携協定を締結している市川市および地域企業の関係者を加え、地域自治体および企業との意見交換を行った。情報リテラシー能力を付けることは、将来的に必要なのは明確であるとか、データスキルについては、今後スキルのある人材は、適切な配置が行われて活用されるものと思うなどの意見を頂いた。今後は、さらにその他の産業界からの意見等を参考に DXPT と全学教育センター、大学・大学院評議会で連携し、授業の改善・見直しについて継続的に検討をしていく。	B

(評価基準)

S	目標を大幅に上回る成果を上げた
A	目標を上回る成果を上げた
B	ほぼ目標通りの成果であった
C	目標を下回る成果であった
D	目標の成果を全く上げられなかった

以上